

令和3年度第1回高槻市文化振興審議会（書面開催）意見一覧

案件1 会長、副会長の選出について

意見なし

案件2 第1期高槻市文化振興ビジョン後期実施計画に係る進捗状況の報告について

意見あり

該当箇所	意見内容	事務局回答
事業一覧 (P.9～P.16)	新型コロナウイルスの影響で令和元年度、2年度の実績が目標未達成となっていることは仕方がないと思います。また、今年度についても同様の結果となると思いますが、令和4年度以降の事業の目標値はどのようにお考えでしょうか。	第2期ビジョン前期実施計画における目標値につきましては、新型コロナウイルスの影響がないと仮定して設定しております。
事業一覧 (P.9～P.16)	各事業の予算の記載がありませんが、実績とあわせて予算の消化率も確認したいので、記載可能なものにつきましては、記載いただきたいとします。	単年度会計の事業につきましては、必要な金額を精査して予算化しているため、予算が消化されていない場合、件数が予定数に達していないなど、他の実績報告にて事情がわかるため、記載を考慮しておりません。 複数年度にまたがるような事業などを実施する場合は、何らかの形で予算消化率をお示しすることを検討します。
—	広報は行き届いているのでしょうか。性別や年齢、住んでいる場所などによって情報や機会の格差が生まれないようにしていただきたいとします。子どものころに文化芸術にふれているかどうかは大人になってからの文化芸術への関心に大きく影響します。	あらゆる人への機会の拡充、とりわけ子どもたちへの機会の拡充は第2期ビジョンにおいても積極的に行っていきたいと考えております。 広報については指定管理者である（公財）高槻市文化振興事業団と連携し、更に力をいれて取り組んでまいります。

案件3 第2期高槻市文化振興ビジョン前期実施計画の策定について

意見あり

該当箇所	意見内容	事務局回答
成果指標の考え方 (P.2)	各事業において、目標値を設定する、しないはどのような基準で判断されているのでしょうか。	各事業において目標値を設定することを基本としておりますが、市以外の主体が実施している事業（ジャズストリート支援における来場者数等）や受動的な事業（文化芸術事業への支援の後援・共催件数等）、そのほか、施設の維持管理を目的としている事業（文化会館の管理運営等）につきましては、目標値を設定しておりません。 ただし、実績のわかる事業については、各指標に基づいた実績を報告してまいります。
施策体系一覧 (P.3～P.4)	施策体系一覧の表はわかりやすく、良くできていると思います。	—
事業一覧 (P.5～P.15)	これだけ事業数があるとどれが新規事業が分かりにくいので、何か印をつけてはどうでしょうか。	新規事業に印をつけさせていただきます。
事業一覧 (P.5～P.15)	事業を実施していくにあたっては、市と高槻市文化振興事業団が密接に連携していただきたいとします。	引き続き市と文化振興事業団で連携して事業を実施してまいります。

該当箇所	意見内容	事務局回答
事業一覧 (P5～P.15)	他の審議会の事業と重複しているものが非常に多いと感じます。同じ事業をそれぞれの審議会で話し合っていることに違和感があります。縦割りではなく、横断的に事業を実施し、評価していく何か良い方法があるのではないのでしょうか。	各事業を実施するにあたりましては、関係部署が連携・協力し、より良いものとなるよう取り組んでおります。ご指摘のとおり計画段階ではそれぞれの審議会ですべての事業が重複しておりますが、1つの事業に様々な側面があり、それぞれの観点で評価してまいります。
事業一覧 「普及育成」、「文化芸術活用」の長期的課題・方向性等 (P5～P.7、P.9～11)	長期的課題・方向性等に記載していただいているように、各家庭の経済力や教育力、環境により子どもたちが文化芸術にふれる機会に差ができないように、園や学校単位での文化芸術に触れる機会を設けられるよう工夫が必要と考えます。家庭の状況により家族の支援を受けられない子どもたちがいることを踏まえ、課題解決に取り組んでいただけるよう、よろしく申し上げます。	子どもたちが文化芸術にふれる機会の確保は第2期ビジョンにおいて重要な方針のひとつです。等しく、かつ少しでも多くの機会を提供できるよう教育現場と連携を図りながら、取り組んでまいりたいと考えております。
—	近年、市民参加型の芸術祭のようなもののノウハウが蓄積されてきており、様々な場所で実施されています。劇場の中だけで完結してしまうのではなく、劇場の外に盛り上がり波及するような取組や発信の方法を考えていくことも重要であると思えます。	ご意見の内容を文化振興事業団と共有し、今後の事業展開に活かしてまいります。
—	これからの芸術文化の広報は、公演やイベントなどのコンテンツの宣伝だけではなく、パブリック・リレーションと呼ばれる関係づくりが重要だと思います。例えば神戸アートビレッジセンターの広報誌では、施設スタッフの紹介や街の情報も掲載し、アートセンターの人格・個性をつくっています。文化を浸透させていくためにはこうした工夫が必要だと思います。	ご意見の内容を文化振興事業団と共有し、今後の事業展開に活かしてまいります。

案件4 「高槻城公園 芸術文化劇場」整備の取組について

意見あり

該当箇所	意見内容	事務局回答
8-3 評価指標の達成状況	新型コロナウイルスが収束するまでは、目標を記載せず、注釈を入れておくほうが良いのではないのでしょうか。目標との乖離が必ず出るので、毎回説明が必要になってしまいます。	地域再生計画に記載の目標は、平成31年の策定時に定めたものです。ご指摘の通り現時点では乖離が出ますが、本来の目標値を掲げながら、感染症の影響度合いを含めてご報告し、達成状況を評価すべきかと考えます。
—	自転車で劇場前から駅まで行く導線が今でも混雑しているため、整備により改善されることを望みます。	劇場へのアクセスルートについては、無電柱化やバリアフリーなどの道路整備を予定しています。
—	高槻城公園 芸術文化劇場の大ホールはどこかのホールを参考にされているのでしょうか。大阪のフェスティバルホールなどは定員2,000人超という規模で質の高いアーティストの公演が行われていますが、芸術文化劇場でも同様の公演ができるように考えていただければと思います。	過去10年以内にオープンした全国の1,000席以上の公立劇場を参考としております。フェスティバルホールとは席数規模が異なりますが、当劇場の大ホールでも様々な公演に対応できる席数や舞台のスペックを備えています。

その他

該当箇所	意見内容	事務局回答
—	今回は書面開催ということでしたが、ウェブでの会議は検討されたのでしょうか。官公庁でもウェブ会議の導入が進んでいると思います。規則等でウェブ会議が実施できないのでしたら致し方ないかと思いますが、そうでなければ会議の開催方法について検討したいと思っています。	ウェブ会議につきましては、委員の皆様の環境が整っていることが条件となりますので、慎重に検討したいと思っています。